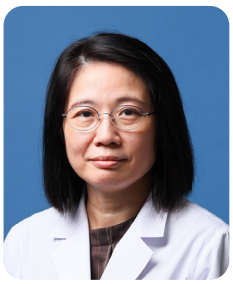
糖尿病網膜症について



眼科　部長
福嶋　はるみ

[専門領域]
糖尿病網膜症
[主な資格]
日本眼科学会　眼科専門医
医学博士

　このたび眼科部長を拝命した福嶋はるみと申します。平成8年に東京大学医学部医学科を卒業した後、大学病院や市中病院に勤務してきました。糖尿病網膜症を専門としています。

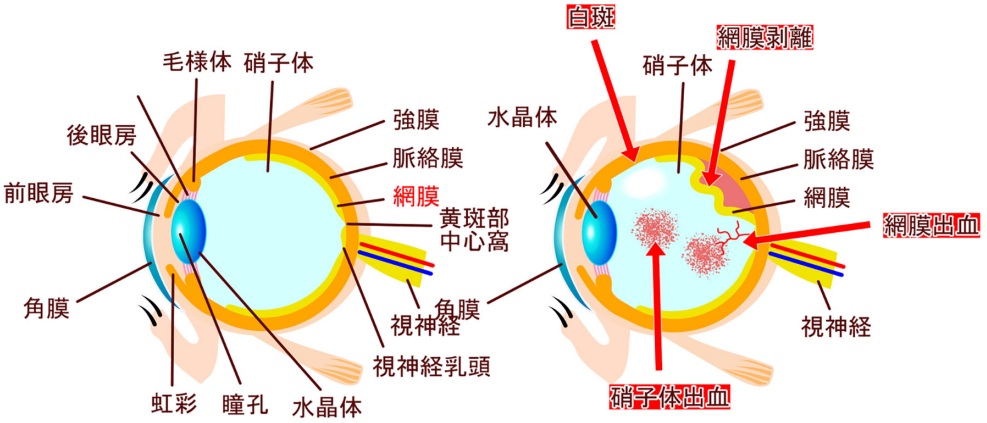
糖尿病と眼

　私が専門とする、糖尿病網膜症について書かせていただきます。

　糖尿病は高血糖症状をきたす全身の病気ですが、糖尿病が原因で他の病気を起こすことがあります。それを合併症と呼び、特に①神経、②腎臓、③眼に病気が出やすいため、糖尿病の三大合併症と呼ばれています。眼に出てくる合併症、それが「糖尿病網膜症」です。

　日本には740万人もの糖尿病患者がいて、そのうちの40%近くが糖尿病網膜症を合併しているとみられます。日本全体で300万人もの糖尿病網膜症患者がいることになり、決して珍しい病気ではありません。進行すれば失明に至る病気で、日本では毎年約3,000人が糖尿病網膜症により失明しています。以前（昭和時代）は日本人の失明原因の1位だったのですが、最近は様々な治療の進歩により失明を回避できるようになっていて、失明原因の3位となっています（1位が緑内障、2位は黄斑変症です）。

　糖尿病網膜症の初期は、内科的治療（血糖値のコントロール）でよくなります。しかしある程度進行すると、眼科での治療が必要になります。レーザーで眼を焼いたり、眼球に注射したり、手術をしたりする必要が出てきます。そういう治療のタイミングを逃さないようしっかり経過をみて、適切な時期に適切な医療を提供するのが眼科医の役目です。前述した通り、現在では治療が遅れなければ失明に至ることはまずありません。糖尿病がありましたら、まずはお近くの眼科を定期的に受診してください。



当院眼科の診療体制について

　当院は高度な医療を提供する役目を担う医療機関であり、外来は完全予約制で、初めての受診には紹介状が必要です。眼が赤い、めやにが出る、といった症状で気軽にかかることは難しいため、皆様にはかかりつけの眼科をもっていただき、専門的な検査や治療が必要な段階になったら、紹介状をもらって当科を受診してくださるようお願いします。

　当院の外来は、担当医制をとらず交代診療で行っています。受診する度に診察する医師が異なることに不安もあるかと思いますが、複数の医師に診てもらうことで診療の質が平均化され、いつ受診しても同じ水準の医療を受けられるというメリットがあります。どうか安心して受診してください。